

## 21年目のスタート

全国循環器撮影研究会会長  
安 永 國 廣



平成 18 年 4 月 7 日に開催された全国循環器撮影研究会(以下、全循研)20周年記念講演会で、ノーベル物理学賞を受賞された東京大学の小柴昌俊先生の「やれば、できる」を拝聴し“情熱を無くさず、多くの人々と支え合いながら困難に立ち向かって行くことの大事さ”を学びました。

21年目がスタート。一年間会務を行ってきましたが大変厳しい状況の中での運営でした。会員数の伸び悩み、会費納入率の低下、広告・賛助会員の減、会誌発行に伴う原稿集まり具合の低調、締め切り日の未厳守などなど事務局は苦労しました。

巻頭言の冒頭から愚痴ばい話となりましたことお詫び申し上げます。しかしながら多くの皆様の支えで今日まで進めてこれました。

「シネ撮影研究会」として発足された研究会も、この20年間で様変わりを致しました。会則制定・会員制の導入・会費設定、会誌の発行、全国推進母体の発足、課題研究・ワーキンググループの立上げ、研究班による研究成果の全国普及、被ばく低減セミナーの開催・普及と数え上げれば限りが無いくらいの活動を行って頂きました。全循研は「シネ撮影技術」に関する研究を中心におこなってきましたが、循環器領域におけるCT、MRI、RI、USなどのモダリティーの進出は目ざましく、「シネ撮影研究会」から「全国循環器撮影研究会」と会の名称を変更し、循環器領域を中心とした全てのモダリティーに注目した活動に変更して現在に至っています。

さて、医療に対する社会、特に国民の厳しい視線が注がれているのは周知のごとくであり、その厳しい評価に対応して安心・安全の医療を提供するためには、今にも増してチーム医療にかかわる専門職がさらに専門性を高める仕組みが必要であります。日本放射線技術学会(JSRT)理事会ではこれまで“日常臨床においてIVR施行時の放射線被ばくが問題となっており、「IVR専門技師」の立ち上げを希望する意見もあるが関連学会等との調整が今後の課題である”としておりましたが、スーパーテクノロジスト認定制度委員会内に「血管撮影専門技師認定班」ができて、班長に元全循研会長で山形大学病院技師長の江口陽一さんが就任されております。

循環器撮影専門技師認定機構(仮称)設立に向けて関連する団体に協力要請を行い準備中との事です。幸いにも班員に全循研会員が多数参加されており、全循研の声が反映されたら嬉しいと思っています。それには全循研の今後の会務運営が大きなウエートを占めるものと考えます。認定受験資格の中にJSRTの会員であり、全循研の会員・被ばく低減施設認定取得・循環器被ばく低減セミナー受講などのポイントが加味される事を願っています。

JSRT総会が横浜市での定置開催となったことで、全循研会長、事務局などを含んだ全循研のこれからの運営についても検討する時期を迎えたと考えています。12推進母体をはじめ、広く全国の会員の皆さま、これまで熱心に支えて頂いた賛助会員の皆さまには会の運営に対し忌憚のないご意見を頂戴致しますよう切にお願いする次第です。